

皆さんはご近所さんとの関わりを大切にしていますか。昔のぼくは、ご近所さんとの関わりを気にしたことがあまりありませんでした。たまに回覧板をわたしに行くぐらいしか関わったことがありませんでした。その時も、何も会話をせず、すぐに家に帰るということが多く、まともに会話をしたことがありませんでした。なので家の周りの人がどういう人なのかを全く知らないまま、小4の春にぼくは引っこしました。引っこし先は、家の周りに何も無い田舎でした。そこは、昔いたところよりもご近所さんとの関わりが深く、おばあさんと朝、学校に行くときに会えば「おはよう、行ってらっしゃい」学校から帰ってくるときに会ったら「おかえり」などの声をかけてくださるところです。引っこしてきて最初は、返事をするのがはずかしいなという思いがありました。しかし、毎日毎日顔を合わせておばあさんが声をかけてくださると、ぼくもはずかしいという思いがなくなり、当たり前のように「おはようございます」「ただいま」と言えるようになりました。最近は学校に行くとき、帰るときに「おはよう」「おかえり」という声を聞くと安心します。

他にも、「これ作ったからあげる」と野菜やご飯をおすそ分けしてくださったことも沢山ありました。そして、もらう事だけではなく、おばあちゃんやお母さんから「これ〇〇さんに持って行って」と言われたこともあります。少しめんどくさいなと思うこともありましたが、その人の家まで持っていくと「ありがとう」と言われて持ってきてよかったと、とても気分が良くなりました。また、ぼくの家でも、何かおすそ分けしてもらおうと、「ありがとう、お礼にこれ持って行って」と同じようにおばあちゃんやお母さんたちが日常の流れでご近所さんとの付き合いをしているのをよく目にしています。このような関係が築かれていく中で、ほぼ毎日ご近所さんに会っていると、いつのまにかご近所さんがみんな家族のように感じるようになりました。

しかし、今の時代は、ご近所さんなどとのつきあい方も全面的なつきあいが望ましいという人よりも、形式的なつきあいがよいと考える人のほうが多いという調査結果もあります。今の時代ほとんどの人がスマートフォンを持っており、インターネットを利用しています。SNSなどで簡単に人とつながることはできますが、それが原因で事件やトラブルに巻き込まれたりすることも多いのが現状です。

ネット社会の便利さは大切ですが、人間関係がうまく築きにくいことが問題だと思います。人と人とのつながりがうすくなり、安心して日常生活を送りにくいことは怖いことです。

人と人との心の距離間というのは、身近に感じられる誰かを、大切に想える気持ちの大きさだと思います。辛さやさびしさなどを埋め合わせるだけのつながりでは心の距離間は縮まりにくいと思います。

人と人がつながることで信頼が生まれ、協力や助け合いの気持ちが育ちます。ぼくの住んでいる地域は田舎ですが、人と人とのつながりが温かく、誰かが困ったことがあっても、家族以外の人も一緒になって心配をしてくれたり助けてくれたりする優しさがある地域です。

ぼくは、SNSなどで多くの人とすぐにつながることができる環境のすべてが悪いわけではないと思います。しかし「おはよう」や「ありがとう」といったなにげない言葉を当たり前のように相手の前でちゃんと伝えられる環境のほうが安心もでき過ごしやすく感じます。

ぼくは、これから先、ご近所さんや地域の人、学校の友達や先生など、沢山のひととつきあっていく中で、自分の気持ちを相手に直接伝えながら、助け合い、信頼できる関係をつくっていきたいと思っています。

人は一人では生きていけません。周りに信頼できる人がいるおかげで安心もします。

みなさんも信頼し合えるご近所さん、身近な存在はいますか？